

低利用作物資源はアフリカにおける栄養不良や社会経済に関する問題の解決に貢献することができるか？

パトリック・マウンドゥ バイオヴァーシティ・インターナショナル/ケニア国立博物館研究員
ICCAE客員研究員（2007年8月15日～11月14日）



アフリカの半乾燥地にある農村で生まれ育った私は、少年時代、遠方まで牛の放牧に出かけた時には、野生植物を採って食料や水分を補いました。この経験とその後のケニア国立博物館東アフリカ植物標本館における仕事が、私にアフリカの植物資源に関する研究に従事するきっかけを与えてくれました。

アフリカには4万種を超える植物が存在すると言われており、食料、薬剤、化粧品、繊維、木材などとして利用されている植物も相当数に上ります。しかし、これら植物資源の持つ潜在的価値は十分に活用されているとは言えません。アフリカの植物資源を効果的に利用することにより、住民の生活向上に貢献できると考えられますが、このためには、研究、技術移転、高付加価値化、市場開拓、植物資源の価値に対する“気付き”の向上など様々な活動が必要です。バイオヴァーシティ・インターナショナルは、他機関と連携して東アフリカの約10種の伝統作物野菜の市場開拓・消費拡大に取り組み、伝統作物の有用性を実証してきました。

ICCAEにおいては、横原大悟准教授と共同で、アフリカにおける低利用作物遺伝資源の保全と利用に関する共同研究の枠組み形成に取り組みとともに、ケニア、キツイ県を対象として、植物資源の潜在的価値とその利用促進にかかる課題について研究しました。また、名古屋大学、筑波大学、京都大学およびJICAにおける発表を通して、私たちの考え方や経験を多くの関係者と共有することが出来ました。これらの活動の実現を支援して下さったICCAE教職員の皆様に感謝いたします。

略歴 1959年ケニア、マチャコス生れ。ナイロビ大学卒業後、ケニア農業省で勤務。1989年よりケニア国立博物館で民族植物学研究中に従事。同博物館では東アフリカ植物標本館研究員を経て、1996年から2006年までケニア伝統知識集積センター（KENRIC）センター長。1997年ギリシャ、チャニア地中海農業研究所で修士号取得。2001年よりバイオヴァーシティ・インターナショナル・（旧国際植物遺伝資源研究所：IPGRI）サブ・サハラ地域事務所（ナイロビ、ケニア）研究員を兼任。2006年CGIAR殊勲賞（CGIAR Outstanding Award）を受賞。

オープンセミナー開催記録（2007年4月～12月まで）

回数	日時	テーマ	講師	所属
1	5月31日	在地の技術開発情報の理解から始まる西アフリカサヘル農業開発	林 慶一氏	国際農林水産業研究センター（JIRCAS）生産環境領域研究員
2	6月6日	ウガンダでのJICAの農業開発協力について	富高元徳氏	国際協力機構（JICA）国際協力専門員
3	7月12日	カンボジア王立農業大学における獣医学のカリキュラムと研究開発	メアス・ソティー氏	カンボジア王立農業大学農業研究普及部長兼ICCAE客員研究員
		イネの耐乾性：国際稲研究所（IRRI）でのNew Frontiers Project	ラシッド・セラージ氏	国際稲研究所主任研究員
4	7月31日	笹川アフリカ農業改良普及員教育基金（SAFE）：全く新しい研修イニシアティブ	デオラ・ナイバケラオ氏	笹川アフリカ農業普及教育基金事務局長
5	9月10日	アフリカ人造り拠点（AICAD）、JICA、ICCAE間の協力：日本の協力に対する評価と期待	パトリック・ワク氏	アフリカ人造り拠点（AICAD）副研究開発部長
		アフリカのフードシステム：その変化および人々の栄養状態と生活に及ぼす影響	パトリック・マウンドゥ氏	バイオヴァーシティ・インターナショナル兼ケニア国立博物館研究員兼ICCAE客員研究員
6	9月25日	ネリカ（NERICA, New Rice for Africa）の特性とウガンダ及び東南部アフリカ諸国における普及状況	坪井達史氏	国際協力機構（JICA）ウガンダ長期派遣専門家
7	10月11日	カンボジアにおける持続的な農村社会開発に向けた技術協力とは～バタンバン農業生産性強化計画における取組より～	小國和子氏	日本福祉大学大学院講師
8	11月13日	作物遺伝資源とその利用にまつわる伝統知識の保全および農民の生活向上への利用：ケニア、キツイ県における事例	パトリック・マウンドゥ氏	バイオヴァーシティ・インターナショナル兼ケニア国立博物館研究員兼ICCAE客員研究員
9	11月16日	熱帯における砂糖とエタノール生産のためのサトウキビ栽培技術について	アルバロ・アマヤ氏	コロンビア・サトウキビ研究センター所長